



平成 28 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社ユニマツト リタイアメント・コミュニティ
代表取締役名 代表取締役社長 平家 伸吾
(JASDAQ・コード 9707)
問い合わせ先 取締役管理本部長 寺坂 淳
電 話 番 号 03 (5413) 8228

通期連結業績予想の修正及び個別実績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 27 年 8 月 12 日に開示した平成 28 年 3 月期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の連結業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。また、平成 28 年 3 月期の個別業績見込みにつきまして、平成 27 年 5 月 15 日に開示した「平成 28 年 3 月期決算短信〔日本基準〕（連結）」において業績予想の開示を省略しておりましたが、前期実績値との対比においてその差異が開示基準に達する見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想数値の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	(百万円) 44,000	(百万円) 1,160	(百万円) 700	(百万円) 250	(百万円) 31.89
今回修正予想（B）	44,971	772	280	△163	△20.80
増 減 額（B－A）	971	△387	△419	△413	
増 減 率（％）	2.2	△33.4	△59.9	－	
（参考）前期連結実績 （平成 27 年 3 月期）	42,537	1,360	1,002	469	59.92

2. 修正の理由

平成 28 年 3 月期の連結業績予想につきまして、主力事業である介護事業において、デイサービスは、営業力強化の結果、稼働率が向上いたしました。また、ショートステイの稼働率が計画より下回ったこと、また、その他の一部不採算事業拠点の休止・廃止等を行ったことから、介護事業の売上高が伸び悩みました。しかしながら、不動産分譲事業において、販売が順調に推移したことから、全体の売上高は、前回発表予想を上回る見込みであります。

一方で、利益については、介護事業において、シフト管理の徹底等、業務の効率化および人員配置の適正化を図ると共に、経費削減を進めてまいりましたが、施設サービスの質の維持・向上のため、夜間・休日等の勤務環境に柔軟かつ安定的に対応できる人員を確保するにあたり、常勤職員の比率を高めた結果、計画よりも人件費が増加したことから、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益においても前回発表予想を下回る見込みであります。

3. 当期の個別業績見込と前年実績との差異（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績（A） （平成27年3月期）	(百万円) 42,537	(百万円) 1,360	(百万円) 1,002	(百万円) 470	(百万円) 59.96
当期実績見込み（B） （平成28年3月期）	44,971	772	280	△162	△20.77
増減額（B－A）	2,434	△588	△721	△632	
増減率（％）	5.7	△43.2	△72.0	－	

4. 差異の理由

平成28年3月期の個別の業績につきましては、売上高については、主力事業である介護事業において、営業力強化の結果、デイサービスの稼働率が向上したことに加え、ショートステイの利用者数も増加したことから、堅調に推移いたしました。また、不動産分譲事業において、販売が順調に推移したことから、売上高が前年実績を上回る見込みであります。

一方で、利益については、介護事業において、シフト管理の徹底等、業務の効率化および人員配置の適正化を図ると共に、経費削減を進めてまいりましたが、施設サービスの質の維持・向上のため、夜間・休日等の勤務環境に柔軟かつ安定的に対応できる人員を確保するにあたり、常勤職員の比率を高めた結果、人件費が増加したことから、営業利益、経常利益および当期純利益においても前年実績を下回る見込みであります。

平成29年3月期につきましては、引き続き、施設サービスの質の維持・向上を目指し、売上の確保と利益構造の適正化を図ってまいります。

上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報及び業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上